

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

③ わらべのものがたりに、むかし老いたる夫婦あり。夫はたきぎを山に折、婦は流れに沿て衣を
童の 話 に、むかし老いたる夫婦あり。夫はたきぎを山に折、婦は流れに沿て衣を
採りに行き 川沿いで

あらふに、桃の実一ツ流れて来つ。

たずさへてかへりて夫に示すに、その桃おのづからわかれて、うちに男児ありけり。この老夫婦
④ 手に持って 自然に割れて

もとより子なし。この桃のうちなる児を見て喜びて、これをはぐくみ、その名を桃太郎とよぶほど
初めから 養い育て

に、その児たちまち大きになりつゝ、力人に勝れて、ひとさとに敵なし。
力是人より 一国

ある日、その母にきび団子といふもの、あまたとゝのへてたまはれと言ふ。母その故を問へば、
⑥ だんご ⑦ たくさん 準備して ください ⑧ 理由

鬼ヶ島におもむきて宝を得んためといらふ。父聞いて、いと勇と誉めて、その言ふまゝにす。
行つて 答える 勇ましい

団子すでにととのへしかば、桃太郎これを腰間につけ、父母に辞し別れて、ゆくゆくみちに犬あり、
⑩ こし ⑪ び 挨拶をして 道

その腰間なるきび団子を見て、これ一ツたまはらば、従者たらんといふにとらしつ。
くたさるなら 家来になりましょう

又、猿と雉子とにあへり。みなきび団子を与えて従者とし、遂に鬼ヶ島に至り。
つひ

⑫ そのいはむろを責めて、鬼王をとりこにす。鬼どもその敵しがたきを見て、三ツの宝物隠れ蓑、
洞穴の住居 生け捕りにした 對抗できない

隠れ笠、打ち出の小槌をたてまつりて、主の命乞いせり。
がさ 差し上げて

かくて桃太郎、その宝を受けて鬼王をゆるし、犬、猿、雉子をいて、故郷に帰り。思ふまゝに
⑭ 率いて

富さかへて、父母をやすらかに養ひしといふ事。
⑮

(「桃太郎」『燕石雜志』卷四・曲亭馬琴『日本隨筆大成』第二期第19卷吉川弘文館編集第一部)

(1) 傍線部①～⑮の読み方を「例」と同じ形式で現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

「例」 かをり↓(かおり)

- | | | | |
|---|---------|---|-----|
| ① | 夫〔を〕とこ | ↓ | () |
| ② | 沿〔そふ〕て | ↓ | () |
| ③ | あらふ | ↓ | () |
| ④ | かへりて | ↓ | () |
| ⑤ | おのづから | ↓ | () |
| ⑥ | いふ | ↓ | () |
| ⑦ | たまはれ | ↓ | () |
| ⑧ | 問へば | ↓ | () |
| ⑨ | いらふ | ↓ | () |
| ⑩ | ととのへ | ↓ | () |
| ⑪ | 辞〔ぢ〕し | ↓ | () |
| ⑫ | いはむろ | ↓ | () |
| ⑬ | 鬼王〔きわう〕 | ↓ | () |
| ⑭ | 思ふまま | ↓ | () |
| ⑮ | 養ひし | ↓ | () |

(2) 『燕石雑志』では「桃の実の中から子どもが生まれた理由はわからない。しかし、竹の節の中からは子どもが生まれる話は日本にも中国にもある」と説明され、次の中国の話が漢文で書かれています。①～③を書き下し文に直し、すべてひらがなで書きなさい。ただし、歴史的仮名づかいは、現代仮名づかに直すこと。

※夜郎やろう県というところに住んでいた女の人が川で着物を洗っていると、三節みつしの竹が流れてきました。中から泣き声がかかります。

① 括わりレ竹ヲ 視みレ之これヲ、得え二タリ一ひとりノ男をのこヲ。

② 婦かえりテ而ヲ 養やしレ之これヲ。

③ 自シ立テ為なレニ夜郎やろう侯こうト。

《解答》

(1)

①	夫「を とこ」	↓	(お とこ)
②	浴「そふ」て	↓	(そ うて)
③	あらふ	↓	(あ ろ う)
④	かへりて	↓	(か え りて)
⑤	おのづから	↓	(お の ず から)
⑥	いふ	↓	(い う)
⑦	たまはれ	↓	(た ま われ)
⑧	問へば	↓	(と え ば)
⑨	いらふ	↓	(い ろ う)
⑩	ととのへ	↓	(と と の え)
⑪	辞「ぢ」し	↓	(じ し)
⑫	いはむろ	↓	(い わ む ろ)
⑬	鬼王「きわう」	↓	(き お う)
⑭	思ふまま	↓	(お も う ま ま)
⑮	養ひし	↓	(や し ない し)

(2)

①

括^{わり}レ^テ 竹^ヲ 視^みレ^バ 之^{これ}ヲ、 得^えニ^{タリ} 一^{ひとり}ノ 男^{をのこ}ヲ。

たけをわりてこれを見れば、ひとりのおのこをえたり。

②

帰^{かえり}テ 而^やシ^しナ^フ 養^{やし}レ^バ 之^{これ}ヲ。

かえりてこれをやしなう。

③

自^じ立^シテ 為^なル^ニ 夜^や郎^{ろう} 侯^{こう}。

じりつしてやろうこうとなる。